

# 第3次総合計画が始動

## 林野火災から復興へ

瀬戸内しまなみの豊かな自然と世界に誇る海事産業を有する今治市。2026年(令和8年)3月に策定された「第3次今治市総合計画」を新たな道しるべに、10年後の未来に向けた挑戦を本格化させています。今回は、大規模林野火災からの復興や中心市街地の再生、そして市民と共に創る新しいまちの姿について、「マイタウン」が徳永市長にインタビューしました。

未来への森づくりをスタートさせました。  
**記者** 再発防止に向けた取り組みも始められた取り組みも始められた

たそうですね。

**徳永市長** はい。二度と惨事を繰り返さないという覚悟のもと、今年1

月から「林野火災注意報」警報の運用を開始しました。警報発令時に

は屋外での火の使用を禁止し、違反には罰則を適用するなど厳格に対応します。あわせて、地域ごとに火災警戒リーダーを選任し「自分たちの地域は自分たちで守る」という自助、共助の意識を高めています。

**記者** 新しく策定された「第3次総合計画」では、どのような今治を目指しているのでしょうか。

**徳永市長** 将来都市像として「瀬戸内しまなみから世界へ 夢が行き交うまちIMABARI」を掲げました。今治が夢を持つ誰かの「原点」となり、「目的地」ともなるまちを目指しています。また、計画を視覚化した「フューチャーマップ(未来予想図)」を作成し、市民の皆さんが10年後の自分の暮らしをワクワクしながら想像できるようにしました。

**記者** 中心市街地の再生も、いよいよ「創生」のフェーズに入りませんか。



▲今年3月に行われた記念植樹

**マイタウン記者** 昨年3月の林野火災から1年が経過しました。改めて、復興への想いをお聞かせください。

**徳永市長** 481.6ヘクタールを焼失したあの火災は、平成以降の県内で最大規模の被害となり、災害が暮らしの根幹を揺るがす脅威であることを痛感させられました。昨年11月に策定した「復旧・復興計画」に基づき、今年3月には地元

## 未来への森づくり 1,350本を植樹

の子どもたちやトップアスリートら350人と共に1350本の苗木を植える記念植樹を行いました。



▲今治の10年後を視覚化したフューチャーマップ